

区 分	内 容
会 議 名	県都まえばし創生本部第3回有識者会議
日 時	平成27年11月25日(水) 15時00分～17時00分
場 所	庁議室
出 席 者	<p>【委員】 (産) 曾我委員、黒岩委員(代理:柳田委員)、小中委員 (学) 窪田委員、大森委員 (官) 深津委員 (金) 南委員、武者委員、阿部委員 (言) 鎌田委員 (住民) 木暮委員、角田委員 ※横堀委員、星委員、松本委員、松井委員、鈴木委員、斎藤委員、梅澤委員、 は都合により欠席</p> <p>【前橋市】 山本市長、細野副市長、藤井政策部長、谷内田政策推進課長、原田政策推進課長補佐、樋山副主幹、神保主事</p>
発 言 内 容	<p>—開 会—</p> <p>藤井政策部長 ただいまから、県都まえばし創生本部第3回有識者会議を始めます。私は、本日の司会を務めます、前橋市政策部長の藤井と申します。どうぞよろしくお願い申し上げます。</p> <p>はじめに、県都まえばし創生本部、本部長の山本市長からご挨拶申し上げる予定でしたが、現在、定例記者会見をしており、予定よりも時間が伸びております。終わり次第、この会議に出席する予定となっておりますのでご了承願います。</p> <p>—議 事—</p> <p>それでは、議事に移らせていただきます。ここからの進行は、設置要綱によりまして、曾我座長さんをお願いします。</p> <p>曾我座長 改めまして、皆さんこんにちは。僭越ではございますが、座長を務めさせていただきます。皆さま方におかれましては、11月もあと僅かというお忙しい中、御出席を賜りまして誠にありがとうございます。将来の前橋の方向付けを決める大事な会議でございますので、各領域において、忌憚のないご発言を賜りたいと存じます。そして、今回のまとめの中に活かされていけばありがたいと思っておりますので、どうぞよろしくお願いいたします。</p> <p>早速ではございますが、議事に入らせていただきます。まずはじめに、事務局から説明をお願いいたします。</p>

原田政策推進
課長補佐

事務局の原田と申します。私からは、前橋版人口ビジョン案について資料に基づきご説明させていただきます。

まず、資料1をご覧ください。こちらが、前橋版人口ビジョン・総合戦略の構成案となっております。最終的には、こういった内容が1冊の冊子になるということでイメージをしていただければと思っております。

それでは、資料2「前橋版人口ビジョン(案)」のご説明をさせていただきます。1ページ目と2ページ目は、総論的な部分を記載しております。まず1ページ目、地方創生をめぐる動きでございます。皆様ご存知かと思いますが、2040年には全国1,800市区町村の半分が存続の難しい“消滅可能性都市”になるという日本創成会議の発表以来、人口減少は日本の中で大きな関心を集めることとなりました。日本の総人口は、2008年の1億2,808万人をピークに減少局面へと転じており、2060年には約8,674万人にまで減少すると見込まれています。

また、人口増減に大きな影響を与える出生状況につきましては、2013年の合計特殊出生率は全国平均で1.42人となっており、長期的に人口が一定となる出生の水準である人口置換水準2.07を大きく下回っているのが現状でございます。

こうした状況を踏まえ、国は、2014年11月に「まち・ひと・しごと創生法」を施行し、加えて、同年12月に「長期ビジョン」及び「総合戦略」を策定するとともに、地方自治体に対して、この法律に基づく地方版総合戦略の策定を要請したところでございます。

続いて2ページ目に移ります。前橋版人口ビジョン・総合戦略についてでございます。本市の人口は、2004年をピークに人口減少局面へと転じました。2010年に約34万人であった人口は、このまま何もしなければ、2060年には約22万人まで減少すると見込まれています。市民への意向調査においても、8割以上の方が、「人口減少や高齢化に対して不安を感じる」と回答しております。

人口減少問題は、病気に例えれば「慢性疾患」であると言えます。人口ビジョンでは、本市の現状分析(診察)と目標の設定(治療方針)、総合戦略では、目標達成に向けた施策(治療)をそれぞれ提示いたします。そして、人口ビジョンにつきましては、2060年までを期間とし、本市の人口を分析し、今後目指すべき将来の方向と人口の将来展望を示します。また、総合戦略につきましては、計画期間は平成27年度から31年度までの5年間となっており、人口ビジョンの結果を踏まえ、今後5か年で取り組むべき施策を示します。

3ページ目以降は人口ビジョンの内容となります。まず、前橋市の人口動向でございますが、国立社会保障・人口問題研究所の推計によりますと、現状のまま人口減少が進んだ場合、2040年には約28万人、2060年には約22万人になると推計されております。

続いて4ページ目が、年齢3区分別人口の推移でございます。2010年と2040年の推計増減率を比べますと、総人口は17.7%、生産年齢人口は30.6%、年少人口は38.8%減少する一方で、老年人口は31.4%増加する見込みとなっております。

続いて5ページが自然増減及び社会増減の推移でございます。本市の自然増減及び社会増減を見ますと、2004年までは自然増が社会減を上回っており人口が増加してまいりましたが、2005年には自然増が社会減を下回り、人口減

少局面へと転じました。さらに、2008年以降は、自然増から自然減に転じたことによりまして、人口減少が加速しております。

6ページ目に移ります。出生数・死亡数の推移でございます。自然増減数につきましては、2007年までは出生数が死亡数を上回り、自然増が続いておりましたが、2008年以降、死亡数が出生数を上回り、自然減が続いております。

7ページ目に移ります。合計特殊出生率の推移でございます。近年の合計特殊出生率を見ますと、2005年には過去最低の1.29まで下降いたしました。その後は微増傾向にございまして、2013年は1.46となっております。

8ページ目に移ります。社会動態でございます。転入者数及び転出者数の推移でございますけれども、過去10年間の平均を見ますと、約400人の転出超過が続いております。

9ページ目に移ります。年齢階級別純移動数でございます。2012年から2014年までの3か年平均を見ますと、男女ともに若い世代、15歳から19歳までの転出が顕著となっております。なお、60歳以上につきましては、概ね転入超過となっております。

10ページ目に移ります。人口動向の考察でございます。まず、自然動態の考察につきまして、1つ目は未婚率の上昇でございます。日本では、嫡出子が約98%を占めており、出生数には女性の婚姻の有無が大きな影響を及ぼしていると考えられます。本市の未婚化の動向を見ますと、若い世代の未婚率は男女ともに上昇しており、直近の2010年で65.9%となっております。未婚の原因を解消し、未婚率の上昇に歯止めをかける必要があります。

なお、夫婦の結婚年齢が高いほど平均出生子ども数は少ない傾向にあります。妻の結婚年齢が20歳から24歳の夫婦では、平均出生子ども数が2.08人であるのに対し、25歳から29歳では1.92人、30歳から34歳では1.50人となっております。したがって、結婚年齢の上昇、いわゆる晩婚化は、夫婦の平均出生子ども数を低下させることがわかります。

12ページに移ります。夫婦間の出生数の減少でございます。こどもの数について見ますと、我が国の完結出生児数は、1977年には2.19人であったものが、2010年には1.96人と2人を割るなど、確実に減少しております。その一方、夫婦にたずねた理想的な子どもの数は、直近の調査で2.42人となっており、2人から3人の子どもが欲しいというのは、今も昔も変わらない夫婦の想いとなっております。

13ページに移りまして、こういったことから、1人よりも2人、2人よりも3人の子どもを生み・育てられるよう子育て家庭の不安や負担を軽減するとともに、子どもが欲しくてもできない、そんな思いの夫婦をサポートし、夫婦間の出生数の減少に歯止めをかける必要があります。

14ページ以降が、社会動態の考察でございます。本市の社会動態を見ますと、男女ともに、15歳から19歳及び20歳から24歳まででの転出が顕著となっております。具体的には、高校を卒業し大学等に進学するタイミング及び大学等を卒業し就職するタイミングの2つの時点で、県外に転出しているものと解されます。

15ページに移ります。2013年の15歳から24歳の転出先内訳を見ても、東京都への転出超過数が最も多く、続いて神奈川県、埼玉県の順に転出超過数

が多くなっております。若者を地域に定着させる、また一度出て行った若者が地域に帰ってきたいと思わせる取り組みにより、若者の総数の減少に歯止めをかける必要がございます。

続いて、16 ページに移ります。高齢化率と要介護認定者率の上昇でございます。本市の年齢3区分別人口の推移を見てみると、総人口に占める老年人口の割合が多くなっていくことがわかります。今後は、こうした人口構造の変化に対応した各種施策やコンパクトなまちづくりを着実に進めていく必要があります。

17 ページに移ります。加えまして、本市における要介護等認定者数の推移でございます。2000 年の介護保険制度発足以降、増加の一途をたどっております。直近の 2014 年では、要介護等認定者数は 1 万 6 千人余りで、要介護等認定者率は 18.0% となっております。この傾向は今後も継続する見込みで、2017 年には 20.1%、2025 年には 23.1% になると見込まれております。こうしたことから、元気で長生きできる期間、いわゆる健康寿命の延伸に向けた取り組みや、意欲ある高齢者が生きがいをもって就労・社会参加できる環境を整備することで、要介護等認定者率の上昇に歯止めをかける必要がございます。

そして、18 ページからが将来人口推計でございます。社人研のデータを活用した 4 つのシミュレーションにより、将来人口と年齢 3 区分別人口割合を推計いたしました。

下の表にありますとおり、シミュレーション 1 は出生・社会移動ともに社人研の推計値を採用したもので、青い折れ線グラフになります。2060 年には約 22 万人余りまで減少すると見込まれております。シミュレーション 2・3・4 でございますけれども、出生につきましては共通の仮定値を設定しております。2030 年までに「市民希望出生率 1.82」を、2040 年までに「人口置換水準 2.07」を実現するものでございます。シミュレーション 2 につきましては、社会移動を社人研の推計値を採用したもので、2060 年には約 25 万 8 千人余りになると見込まれております。続いて、社会移動が改善するシミュレーション 3 でございます。20 歳から 24 歳の移動が 2040 年までに均衡し、2060 年までに年間で 100 人の社会増が実現するというものであり、2060 年には 26 万 2 千人余りになると見込まれております。最後に、さらに社会移動が改善するシミュレーション 4 でございます。20 歳から 24 歳の移動が 2030 年までに均衡し、2050 年までに年間で 100 人の社会増が実現するというものであり、2060 年には 26 万 5 千人余りになると見込まれております。

また、20 ページは、このシミュレーション 1 からシミュレーション 4 までの将来人口推計に基づく年齢 3 区分別割合を表しております。シミュレーション 1 では、2060 年の老年人口比率は 40.0%、年少人口比率は 9.1% となっておりますが、シミュレーション 4 では、2060 年の老年人口比率は 33.2%、年少人口比率は 14.4% となっております。

22 ページは、目指す将来の方向でございます。理念といたしましては、「子どもたちの元気な声が聞こえる ずっと住みたい生涯活躍のまち ～健康医療都市まえばし～」でございます。本市は、水と緑にあふれる豊かな自然環境、高い農業生産力、充実した医療環境など、健康や医療に関する恵まれた地域特性を有しております。こうした地域特性を活かしながら、「子どもが生まれ、育ち、

学び、働き、家族になり、生み、育てる」という好循環を形成して、将来にわたって、「子どもたちの元気な声を聞くことができる」、そして、ここに暮らす市民が生涯にわたって活躍し、「ずっと住み続けたい」と思えるまちを目指すというものでございます。

そして、人口の将来展望でございますけれども、先ほどのシミュレーション4を採用しております。2040年に人口が30万人、人口割合は年少から老年までが、それぞれ14%、51%、35%。また、2060年に人口が26万5千人、人口割合は、それぞれ15%、52%、33%を目指すというものでございます。

23ページに移りまして、(3)基本目標でございますけれども、理念や人口の将来展望の実現に向けて、人口動向の考察から明らかになった4つの課題である「未婚率の上昇」、「夫婦間の出生数の減少」、「若者の総数の減少」、「要介護等認定者率の上昇」を優先課題として設定しまして、その解決を目指して2つの基本目標を設定するものでございます。基本目標1は、主に自然減対策でございます。若者（18歳から34歳、特に女性）の結婚・出産・子育ての希望をかなえるというものでございます。基本目標2は、主に社会減対策でございます。若者の定着と高齢者の活躍により、地域の活力を維持するというものでございます。以上、資料2の前橋版人口ビジョン案につきましてご説明させていただきました。意見交換のほど、よろしくお願いいたします。

曾我座長

ありがとうございます。大変すばらしい前橋版人口ビジョン案を作ってくださいました。

これから各委員の皆様からご意見を伺うところではございますが、本部長である山本市長が到着されましたので、本部長としてのご挨拶をいただきたいと思っております。それでは山本市長お願いいたします。

山本市長

遅刻して大変申し訳ございません。有識者の皆様のご意見をお伺いしながら人口ビジョンを作成していきたいと思っております。どうぞよろしくお願いいたします。

曾我座長

ありがとうございました。では、早速でございますけれども、ご説明いただきました前橋版人口ビジョン案につきまして、各委員さんから各々の立場でご意見を賜れば幸いです。政策金融公庫の武者委員はご予定で途中退席されるので、一番先にご意見を頂戴したいと思います。

武者委員

それでは恐縮ではありますが、一番初めに意見を述べさせていただきます。今回作成の人口将来展望は、非常に高いハードルを課しているなという印象を持っています。特に生産年齢人口を確保するといった場合、新たな働く場を作り出さなくてはいけないということが非常に大きな課題ではないかと思っております。

新たな働く場をつくるということは、一つには新しく就労する人の就業機会を増やしていく、もう一つは辞めていく人を最小限に抑えていくという両面からの策が必要になってきます。新規就労者を増やすための創業・起業、廃業を抑制するための事業承継・事業再生の分野について、さまざまな機関が連携し

て支えていく仕組みを強固に作っていくことが必要だろうと考えております。

特に事業承継・事業再生については、前橋で事業をやってもらう企業を呼んでくる、つまりは企業誘致にも関わってくるのかと思います。従業員の雇用を確保するために事業を継続してもらう企業をどうやって探し出していくかということになると、県内に留まらず全国に情報網を拡げていくことも大事です。かつ事業承継・事業再生は、これまでの負債をどうやって整理していくか、借入金の整理をどうするのが大きくクローズアップされますし、この問題を早期に解決していくことが円滑に事業承継・事業再生を進めるコツになってきます。そういう意味では、この分野では金融機関での支援が非常に大きいのではないかと考えております。また、先ほど申しましたが、全国から企業や人材を呼んでくることになりますと、全国に活動拠点を持っているような組織、私どもも全国に支店を置いています。そういう組織と連携を密にしていくことが非常に大事だろうと考えております。具体的には、全国の中小企業やその取引先に進出の声かけをするということもできますので、いろいろな施策を具体的に進めていく上で、連携を密にさせていただければと思っています。

曾我座長

大変貴重なご意見ありがとうございました。続きまして今回は産・学・官・金・労・言・住民という各分野が置かれているわけですので、ただいまの武者支店長からまず最初のご発声をいただいたので、金の方々から続けてお願いできればと思います。群馬銀行の南取締役をお願いします。

南委員

人口を増やす、あるいは、県内から東京の大学に行ってまた戻るということになると、就労の場を広げる、あるいは事業承継で今ある事業を継続し、さらに拡大していくというところが問題であると思います。

今M&Aが盛んに当たり前になっていますけれども、群馬銀行も今から25年前にM&Aの事業を始めまして、その当時もこれからは事業承継だと言っておりました。戦後に事業をお始めになった方が、60、70歳になって事業を承継するのは、M&Aでいい部分を継承して、大きい会社あるいは東京の会社に組み入れてもらうことによって事業を承継する、あるいは就業人口を継続な取り組みによりもっと増やすということを始めただけです。約25年経ちまして、四半世紀ですけれども、今やっとM&Aということが当たり前のようになりまして、事業を承継する側、極端に言いますと事業を売る側に対する見方も世間一般が円満に譲れてよかったねという見方をやっとできる状態になったところです。そういう意味では、我々金融機関がいろいろなネットワークを活かしながら、今ある事業を元気のいい会社にそのまま継続してさらにこれを増やすということが一つの大きな役割ではないかという気がします。

また就業人口を増やすということであれば、いろいろ今ある事業者の皆様に、就業するという側の考え方をお伝えする。前回も申し上げましたが、うちの入行予定者と面談しますと、特に女性は「何で群馬銀行を」ということを聞きますと、「産休育休制度がしっかりしているからだ」という答えがあります。そういう制度をいかに事業者の皆様に理解していただいて、制度に取り組む事業所にしていけるかということが東京に行って戻ってくるきっかけになるということではないかなという風に思います。従いましていろいろな状況を我々からも

<p>曾我座長</p>	<p>業者様にお伝えすることが大きな役割の一つではないかなと思います。</p> <p>どうもありがとうございます。引き続きまして群馬県信用保証協会の阿部専務理事さんお願いします。</p>
<p>阿部委員</p>	<p>保証協会の阿部と申します。よろしくお願いします。8ページの社会動態についてです。当然のことながら右肩下がりと申しましょうか、2013年は少し上がっていますけれども、おそらく急には上がらないと思っています。先ほどお話があったように、就労人口のお話が出たわけで、前橋市でも中小企業・小規模の経営者の方が大半を占めているわけでございます。前橋市の産業振興ビジョンの統計分析を見ますと、特に「製造業分野の現状」という記事がございまして、平成12年に677事業所があったものが、平成22年が504、おそらく今は500を切っているのだらうと思われます。こういうところを見ますと、勤める場所をきちんと確保していかなければならないと思います。いかにものづくりのところに着目をされて、そこに人を呼び込むというのがポイントになるのではないかと思います。</p> <p>それから、7ページの合計特殊出生率で、一人の女性が生涯の産むことのできる数という面では、過去の最低が1.2から現在1.46と改善しているわけでして、この要因が分からないのですが良い傾向だと思えます。この芽を潰さないためにもよく分析をしていただいて、芽を伸ばしてもらいたいです。以上でございます。</p>
<p>曾我座長</p>	<p>ありがとうございます。金融関係のお三方からご意見をいただきました。特に社会動態その他からいろいろと話が出たところでございますので、関連の強い産業界の方へ話を振りたいと思えますが、産業界で実は商工会議所でございますが、私は進行役でございますので、私と意見調整しております村井政策部長から会議所としての意見を述べていただきます。</p>
<p>村井委員</p>	<p>はい。それでは意見を述べさせていただきます。商工会議所では2年前にまちづくりビジョンをつくらせていただきました。一つは暮らしやすいという視点、もう一つはビジネスのしやすいまちという視点で議論させていただきました。ビジネスがしやすいという中では、群馬銀行さん上毛新聞さんに頑張ってもらっていますが、起業者・創業者をまず増やしていこうではないかという部分、それと新しい産業を支援していくところが肝心かと思えます。</p> <p>これだけではなく、前橋には100年以上続いている老舗企業がたくさんあります。こういった老舗企業を支援していくことも大切なのかなと思います。長く続く魅力ある地元の企業を育てることが一番大事なのかなと思います。また全国の商店街で活性化しているところは、東京資本のテナント商店街になっています。テナント商店街はちょっと景気が悪くなるとすぐに撤退してしまうというかたちになります。地元企業が商店街の中に根付いていくという方向性が大事なのかなと思いますので、この点を踏まえてぜひ支援をしていくことが大事なのかなと思います。</p> <p>もう一つは首都圏にある優良企業、あるいは行政関連機関の移転誘致、これ</p>

にも力を入れていただいて、いろいろなところの就業機会、勤められる場所をつくっていくことは大事なのかなと思います。人口ビジョンについては、ちょっと別な視点ですが、すでに県のほうでも2060年の人口を160万くらいにしていきたいという風な将来展望が先日出ています。県全体の人口を考えると市町村で取り合うということではなく、よく連携しあっていくことが重要だと思いますので、その課題の一つである東京一極集中を北関東三県含めて是正していくことが大事だと思います。若い女性が前橋に興味をもっていただいて返ってきていただくような考え方、また、首都圏に住む元気なシニア層の方が移住をするということで、CCRCの考え方みたいなものも導入していくことがキーになるかなと思います。

曾我座長

続きましてJR東日本高崎支社の柳田課長さんよろしく申し上げます。

柳田委員

本日は支社長の黒岩が所用で出席できません。代理で申し訳ございませんが、意見を述べさせていただきます。JR東日本でも社人研の出した数値を大変危機的な課題として捉えています。前橋駅の乗降人員をシミュレーションして捉えると、現在から約5千人減ると予想しております。現状の輸送サービスや運賃などが、提供できない可能性があるということで、大変重要な課題として考えております。また人口ビジョンの出生率を1.46から1.82、2.07と増えるシミュレーションをされていますが、これをどのように確保していくかが重要かと思っております。ぜひ、色々な場で若者のコミュニケーションの場をだんだん増やしていく。昔は各企業でも運動会とかをやっていたと思いますが、今は経費削減で、コミュニケーションの場を会社としてやらないというところが増えていっていると思います。行政としてもそういったコミュニケーションの場を支援して、歯止めをかけていく必要があるのかなと考えております。

両毛線の活性化ということを言われておりますが、人口減の解消とともに、ぜひやっていきたいと思っております。JRができることは、観光資源をいかに情報発信して県外から来ていただくという選択はJRでもできますが、人口減や少子化はJRとして何もできませんので、よろしくお願ひしたいと思ひます。

曾我座長

どうもありがとうございます。

南委員

今、柳田委員のほうから発言のあった若い人が運動会とかスキー大会とか、当行もかつては私が入った1950年当時は運動会とかスキー大会とかキャンプ大会とかありました。その後、参加率がだんだん悪くなりまして、昼間職場で一緒なのに、土日も一緒にいたくないという傾向がありまして、参加数が減ったことからスキー、キャンプ、運動会を止めました。ところが、今の若い人に聞くとやりたいという声があります。若い人も状況が変わってきております。先日の日曜日に日産がグリーンドームで運動会をやりました。12月23日に当行も大運動会ということで全員参加の家族も含めた運動会をやります。一時期よりは若者の考え方でも変わっていくことにより、市民フェスタや市民運動会も人が集まってくる時代に状況が変化したのかなと思います。

<p>曾我座長</p>	<p>貴重なお話ありがとうございました。暮らしの安心ということでは、就業の場という意味でも大変大きなウエイトを占めております、代表しまして前橋市医師会の小中さんお願いします。</p>
<p>小中委員</p>	<p>小中と申します。今回の人口ビジョンの理念が、「子どもたちの元気な声が聞こえる ずっと住みたい生涯活躍のまち」、副タイトルが「健康医療都市まえばし」ということで、前橋市医師会としても緊張するテーマでございます。私どもは大きな企業体ではなく、患者さんと一対一で対面してその中から最適な方向性を探っていくという日常的な仕事をしています。対象が若い方から、適齢期の女性、高齢者にいたるまで、非常に幅広い範囲で実際の現場で声を聞く立場でございます。その中で前回の8月の会議でも申し上げましたように、出産・子育てという立場から、より現実的であり効果的な方法をどうしたらいいかと日々考え続けているわけであります。「不妊」「不育」に関して、ある程度制度は整っていますが、ハードルが今一つ高いということがあります。病児・病後児保育に関しても手続きが煩雑であるということがあります。なかなか簡単にはいかないと思いますが、今一段ハードルを下げていただくことによってロコミで若い世代の方々に広まっていく。そして他市町村に広まり、全国に広まるということがあると思います。出産、育児という部分でもより一層の努力が必要だと思っております。</p> <p>それと同時に高齢者に目を向けますと、来年の1月23日から乗り合いタクシー「マイタク」がよいよ実施されます。実際に患者さん、高齢者の方、75歳以上で免許を返納した方もいますが、大変助かる、大変ありがたいという声を聞いております。ただ1点気になるのが手続きです。あらかじめ登録をしていくというのが、高齢でもありますし、手続きが大変で免許が更新できないという方に対して、どのように簡単で確実な手続きの方法をとっていくのが良いかについて、行政の方々にもお願いしたいと思っております。</p> <p>高齢者ということで、先ほど要介護等認定者数のお話が出ました。私は前橋市の介護認定審査会で実際に審査を日々行っている立場から申しますと、5年前10年間に比べると非常に認定審査件数が多くなってきています。15年間をグラフで表しますと要介護等認定者数がほぼ倍になっています。現代医療が進む中で、高齢者の人口も増えますと、サルコペニアといいまして手足の筋肉ではなく、飲み込む筋肉も衰えてくる、結局は胃袋に穴を開けて栄養剤を注入して生きながらえる。これが身体的な要因として医療介護等認定者数を増やしている理由となっております。サルコペニアだけでなく、記憶とか思考が衰えていく認知症という症例が全国的にも話題になっています。全てがそうなるわけではないですが、高齢者が増えてきて社会参加が減ってきています。独居・閉じこもりが原因となって認知症が進んでくる。こういうことが引き金になっているというのが医学的にも明らかになっています。高齢者も社会参加できる環境をつくるというのが、若い方々に対する助力にもなるでしょうし、高齢者ご自信にとっても認知症の発症への予防にもつながってくるだろうと思います。なかなか限られた予算でしょうが、こういうことが進めば高齢者に対する医療介護費等の削減にもつながると考えられますし、行政の方や医師会、さまざま</p>

な業種の方と手を合わせて、また一步進めていただきましたら、先ほどの理念、「健康医療都市まえばし」が一日も早く実現できるのではないかと考えているので、今後ともご協力をお願いします。

曾我座長

ありがとうございます。ここで金・産とお話を伺いました。最終的には住民という立場が重要であることで、お三方お越しいただいていますので、ここで各々の立場でご意見をお願いします。まず、最初に前橋市自治体連合会の角田会長さんをお願いします。

角田委員

未婚者が非常に多くなっております。前橋市は勤め先がありません。未婚者の方が結婚できないのは、非常に所得が少ないというのがあると思います。だから結婚に若い人の気持ちが向きません。一人でいた方が非常に楽です。なかなか結婚しない、そういういきさつがございます。

特に若い人で結婚していない人は非常に多いです。最近では自治会関係でも、団塊世代の方が自治会に協力しない傾向にあります。行事になかなか参加しません。参加者が少ないことに各自治会も困っています。結婚するのに所得が上がらないから結婚できない人が多いです。そのためには前橋市に大きい企業を誘致していただき、企業を興し、できるだけ定着して住むようにしていただければありがたいと思っております。

一番私が問題だと思うのが、昔は個人商店が盛っていたわけですが、今は大型店舗が郊外にできたことにより昔ながらの個人商店が駄目になりました。みんなが大型店舗に行ってしまうから、小さな商店が店を閉めてしまっているわけです。だから国の政策が間違っていたのではないかと感じています。そういった政策を元に戻していただきたい。そういうお店がぜひ出来るようにしてあげてほしいと思っております。ぜひこれからもいろいろ考えてやっていただければと思います。

曾我座長

どうもありがとうございます。続きまして前橋市民生委員・児童委員連絡協議会の木暮会長様をお願いしたいと思います。

木暮委員

はい。「子どもたちの元気な声が聞こえるずっと住みたい生涯活躍のまち」、本当に理想のビジョンでございますが、私が子育てをしているところは子どもの声が毎日聞こえていましたが、この頃は全く聞こえない状態で寂しい思いでございます。

私達も、民生児童委員の立場で学校の登下校とかさまざまな面で子どもたちに接する機会を持つようにしております。また、お母さん方にしましても核家族化によって子育てについて自信がない人が多くおまして、そういう方に子育てサロンなどで相談に乗ったりもしております。(親世代が)ひとりふたりの子どもに手を焼いている現在でございます。

先ほど、人口を増やすためには、未婚の方が多いという話が角田会長からありましたが、本当に周りに結婚していない人が多いと感じております。そういった方に結婚の機会を作っていただきたいと感じております。そういう意味では先ほど、運動会やらスキー大会とかいう話がありましたけれども、接する機

<p>曾我座長</p>	<p>会を多く持ってもらえたらいいのでしょうか。コンビニ等ができて一人でも不自由ないというのも悪い影響だと思っております。</p> <p>ありがとうございました。続いて「学」の分野からご意見をいただきたいと思えます。群馬大学の窪田理事さんからお願いします。</p>
<p>窪田委員</p>	<p>群馬大の窪田です。どうぞよろしくお願ひいたします。先ほども、生産年齢人口の減少のというのが一つ大きな問題だと指摘されておりましたが、4ページのグラフで、2015年と2040年と比べると、5万人生産年齢人口が減少している状況でございます。次に18ページの将来人口推計のところで、いくつかのシミュレーションがありますが、一番人口が増えるところでも人口そのものでは2万人くらいしか増えないという結果であります。ということは、どうあがいても生産年齢人口は増えてこないということです。</p> <p>そうしたときに、前橋市、もっと大きく考えれば群馬県という単位で考えようとしたときに、自然増ではまかないきれないということになりますから、社会増をいかに増やすかが大切であって、社会増になるための政策が必要だと考えられます。先ほど柳田さんのほうから両毛線という話がでましたが、交通の便というのは非常に大きなファクターで、特に県庁所在ということもありますから、そこを通る両毛線が使い勝手が良いということは非常に大切です。</p> <p>そういう意味でこういうことは何ですが、県庁所在地でありながら、前橋駅と新前橋駅はなぜ単線なのかということでございます。特に高崎から人が来るという上で、単線というのは非常にボトルネックになっているという気がします。そこを少し解消すれば人の流れももう少し変わってくるのではないかといい風に感じています。</p> <p>総合戦略についても関係すると思うのですが、もう一つの視点ということで、男女共同参画の視点でいろんなことをみてみたら別のことが考えられるのではないかと思います。結婚、子育てということへの支援については、根底に女性が職業について収入を得て社会貢献をすることがありますが、ある意味収入があるから結婚と子育てに多少マイナスの効果がでていくということになるわけで、それを解決する上では、職業に就きながらも結婚・育児ができるような体制、それは個人レベルではなかなか難しいので、行政レベルでしっかりと対策をする必要があるわけです。そのあたりの視点を今後、政策課題に置いて考えていくことが必要だと思われまます。</p>
<p>曾我座長</p>	<p>ありがとうございました。つづきましては過日の中核市サミットにおいて第2分会「子育ての問題」についてのコーディネーターをつとめられました、共愛学園前橋国際大学大森副学長にお願いしたいと思えます。</p>
<p>大森委員</p>	<p>大森です。先ほど窪田先生がおっしゃったように、私も県の男女共同参画の会長をしておりますので、その観点は非常に重要で、総合戦略に未婚率の上昇の要因として女性の社会進出とありますが、それは違うだろう、と。それは次で言わせていただきます。</p> <p>人口ビジョンについていいますと、これはある意味ショックであります。こ</p>

れだけの目標数値を掲げても、結果これだけの人数になるのかということが明らかになったことで、ここにギリギリ留めるための戦略が次に出てくるということになると思います。一方でここまで減るのかと踏まえた上で、どう生活するかを考えることも、もしかすると必要なのかなと感じました。

資料2の18ページにおけるシミュレーションのところで、ポイントは出生、社会移動ということで、特に出生率であるとか、人口置換水準の部分、それから、20歳から24歳の移動に集中してシミュレーションしていただいています。これはある意味まさに選択と集中というか、ここをポイントにして施策を打っていくのだというお考えが見えるのかなという気がいたします。そういう意味では大学も大きな役割を期待されていると思いました。ただ、社会動向を考えると、14ページのグラフも見ましても、60歳以上の方の流入も増えています。これは、人口を増やす意味だけでいえば、この部分を伸ばすという戦略ももちろんありますし、CCRCもそこに入ってくるのだろーうと思います。そういう意味で60歳以上の数値を設定せずにシミュレーションしているということは、あえて若者に集中するという意図も見えましたが、人口を増やすという意味だけでいえば60歳以上の方に来てもらう、というシミュレーションもあり得るのではないかと思います。

加えて、それを踏まえた理念として「子どものたちの元気な・・・」としていただいたところですが、このサブタイトルとして「健康医療都市まえばし」とありますが、このこと自体は非常にあるべき姿だと思います。ただ、若者に集中してアピールしていくとしたときに、私も今3人の子どもを育てていて、一番下は保育園に通っていますが、そういう子育て中の親であることからすると、健康医療都市というと、ちょっと先の話かなという気が正直いたします。

子育てを応援する町とか、教育豊かな町、とかいうと子育て世代の自分たちのイメージはありますが、「健康医療都市」というともう少し先になったらお世話になるのかなというイメージです。ただ、先ほどの小中先生のお話のように例えば病後時保育の問題とかも含めるということが明白になってくるのだということであれば、リアリティが出てくると思います。その辺りがもう少し子どもたちの元気な声も聞こえるところもみえるキーワードが欲しいなと思います。むしろ生涯住みたいまちに関わってくる言葉だと感じたのは正直な感想でございます。

最後に1つだけ事務局に質問です。たとえば9ページです。私はこれまでこういう数字をたくさん見てきた身でありながらいまさらこんなことを聞くのは恥ずかしいのですが、たとえば男性の15歳から19歳のところで転入者が223名転出が257名ということになっていて、差し引いてマイナス34名となっています。

この転出者257名というのは15.16.17.18.19と5歳の子達が含まれていて、単純に5で割るといふ話なのか、平均値が3年間の平均値なのか、各年齢の平均値なのか15歳に257人にいますよ、16歳にも257人いますよ、なのか、その辺りを教えていただきたいと思います。もし単純に5で割るとすると、たとえば年間、18歳とすれば50人くらいですから、50人出ていかないということであれば、それくらいはなんとかできるのではないかと感じます。この辺りの数字の読み方を教えていただけるとありがたい。

<p>谷内田政策推進課長</p>	<p>こちらについては3か年、1年分の数、3年分の平均です。つまり15歳から19歳の層の1年間分の数となります。</p>
<p>大森委員</p>	<p>そうすると単純に5で割ると平均すると1つの年齢に50人くらいだと。257人だから、ということですよ。</p>
<p>谷内田政策推進課長</p>	<p>そのとおりです。ちょっと人口ビジョンのところで付け加えさせていただくと、さきほど100人に増えるということがありましたが、あくまでも20歳から24歳という形になりますので、男女で例えば20歳でいうと10人ずつ、21歳で10人ずつ、ということで男女合わせて100人です。そのため、かなりハードルは高いのですが、男女で20歳の子が転入10人超過させるということは表現は悪いけれども、できないことではないなというのは今回のこのあとにでてくるものでございます。</p> <p>また、先生からさきほど人口ビジョンのなかで高齢者が入ってくれば人口は楽じゃないかということがありましたが、これについては、バランスが大事だと感じています。また、バランスが大事ですけれども、前橋は高齢者が来ることを全く否定しておりません。前橋はCCRCもやりますし、健康医療都市でもある。高齢者はもっと来てほしい。ただ、人口ビジョンのなかで問題は健康ではない高齢者の人が増えるということ。その不健康な人の比率を出すものが何もありません。非健康者比率みたいなものがあれば、人口比率のなかでも年少、生産年齢、そして健康な高齢者、健康でない高齢者というようなものを出せるのですが、それが無いということで、高齢者が来るのは非常にありがたい、ただし、要介護みたいなところが増えるのが問題だ、そういう視点で人口ビジョンを書かせていただきました。</p>
<p>窪田委員</p>	<p>そこで質問といいますか、意見ですけれども、5で割って10人ずつというわけではないと思います。15から19歳の中では18歳でどんと増えますし、22歳から24歳で言えば22歳でどんと増えます。20歳～24歳のところで例えば転出が900人だけれども、大半は限定された年齢だと思います。転出が900人ですけれども、大半はその年齢で行ってしまっているわけですから、そこでの年齢での対策として考えるべきなのではないかと思います。</p>
<p>谷内田政策推進課長</p>	<p>その通りです。その点も今後検討させていただきます。</p>
<p>曾我座長</p>	<p>続きまして、前橋行政県税事務所深津所長さんからお願いしたいと思います。</p>
<p>深津委員</p>	<p>深津です。今の話の続きといいますか、質問ということではなくて、社会移動のところで若者を対象に、それが20歳から24歳ということですが、県と比べてということですがけれども県は総合計画と総合戦略を一体につくっていることとございますので、今のところは総合計画を主体に作っているのが実態です。総合戦略は総合計画から引っこ抜いてつくろうとしているところとございます。</p>

て、総合戦略の細かいところは明らかになっておりません。総合計画を作る上での人口ビジョンとして人口推計を120万から160万の間を考えており、人口160万人としているわけではまだないというのを一つご理解いただければと思います。これから人口減少対策をどれだけやっていこうかと一生懸命やっていけば160万になるのではないかという方向で検討していると思っております。県の総合計画の人口ビジョンで社会移動のターゲットとして15歳から39歳というくくりでシミュレーションをしております。それに対して前橋市は20歳～24歳とターゲットを絞っている。また高校の卒業、大学の卒業、就職のタイミングが一番の狙いなのではと思っております。県としましては、今の段階では60歳以上は手をつけていないというのが現状だと記憶しております。

県も総合戦略はなかなか手をつけられていないのですが、戦略と人口減少対策という意味では、総合計画のなかで、県の未来の創生という意味で人口減少対策としては3つほど視点をもっています。一つは「群馬で暮らし始めたいくなる」もう一つは「群馬に住み続けたいくなる」最後は「群馬で子どもを増やしたいくなる」これは前橋市で作られたものと方向性として一致していると感じています。後ほど施策のなかで関連付けてお話できればと思います。

曾我座長

どうもありがとうございました。最後に、言論界ということで上毛新聞鎌田事務局長からお願いしたいと思います。

鎌田委員

はい。まず、人口ビジョンでいくつか気になった点があります。何かの資料で見たことがあるのですが、県が出している資料でくらしの健康寿命についての調査がありました。それによると、健康寿命上位というのがあって、群馬の男性が10位で女性が2位です。75.27歳。全体でも群馬が3位。73.20。ちなみに2位が愛知県で73.34、さて1位はどこでしょうか。

山本市長

静岡です。

鎌田委員

そうです。静岡県が73.53ということでトップです。これは県の去年の統計資料からでている「群馬県元気21」という調査であり、これが健康寿命に関する統計調査です。人口ビジョンの中で健康に暮らせる健康年齢が次の対策に出てくるかもしれませんが、全体的な認識としては前橋版人口ビジョンでよいと思います。健康で暮らせることも大事ですので、群馬県が全体で3位であることから前橋市もほぼ近い数値なのではないかと思えます。前橋市はどのくらいの位置にあるのかが分かれば、特色として挙げられるのではないかと思います。

群馬県の数字はもう少しで静岡に追い付くことができる場所だったのですが、数字を高くするためには食事、運動、禁煙、減量、健康診断が大切となります。前橋市は野菜やお肉もありますので、食事の部分は優位性があるのかなと思いますので、検討していただければと思います。

人口ビジョン案そのものについては委員の方々からご意見を頂いておりますので、私は視点を変えて「人生のライフプラン・ロードマップ」について述べ

たいと思います。自分自身が住民になったと置き換えた場合、前橋市は住む場所としてどうなのかということだと思います。前橋市には素晴らしい子育ての制度があると思います。「前橋で子育てをするとこんな良いところがあるのか」というものがあると思います。次に「学ぶのであれば前橋市はこんな良いところがあるよ」というものもあると思います。学校が多いことや、素晴らしい自然環境があるわけです。その次に就職はどうなのか。就職をする年齢になると市外に出てしまうわけですが、「いや、前橋にも働き口は沢山あるよ」ということをロードマップ等に示すことができれば市民にとって非常にわかりやすいのではないのでしょうか。行政目線、行政言葉ではなくて個人目線、つまり「もしも自分が住民だったら」という視点を置くことによってより市民に親しみやすい人口ビジョンになるのではないのでしょうか。「学ぶところとしても非常に良いところだな」となってもいよいよ就職だとなると東京に行ってしまう。この前、上毛新聞にも書いたのですが群馬の人は地元が大好きです。南委員からお話がありました。地元であったり、仲間であったり非常に大事に思っている。できれば、群馬で働きたいという人も多いし、仲間意識もあります。前橋市でもお祭りも沢山ありますが、自然発生的に仲間同士で繋がる。あえて東京に行って大変な思いをするよりは地元に残り、良い職があって良い仲間がいればいいかなと思っている人がいるわけです。その人達は群馬・前橋市で結婚するようになります。「働く場としても前橋市にはこんなに良い環境がありますよ」「前橋市は健康寿命が高いですよ」ということです。前橋市は健康・医療都市と謳っています。そのとおりだと思います。非常に環境が良いと思います。前橋市は群馬の重粒子線治療があるなど、医療施設が充実しています。しかし、病気になったときの医療施設の話になります。それだけではなくて、いわゆる未病の段階においても「前橋はいいぞ」という部分をアピールできればいいかなと思っております。人生のロードマップではありませんが、市民の人生の流れの中に落とし込むと人口ビジョンも一般の方にわかり易いものとなりますし、市民の方にとっても身近なものとして情報共有が進むのではないかと思います。以上です。

曾我座長

時間が無くなってしまい申し訳ございません。それでは皆様から貴重なご意見をいただいたところではございますが、結論としまして委員の皆様からいただいたご意見を基に前橋版人口ビジョン案を更に深めていただくところでしょうか。前橋市の目指す将来の方向性、理念といたしましては、「子どもたちの元気な声が聞こえる ずっと住みたい生涯活躍のまち ～健康・医療都市まえばし～」ということです。委員さんからは、健康・医療都市だけでは不十分ではないかというご意見があり、この点については修正が必要かなと思います。人口の将来展望といたしましては、2040年までに人口を30万人、そして年少人口：生産年齢人口：老年人口の割合を14%：51%：35%を目指す。そして2060年には、人口26万5千人、年少人口：生産年齢人口：老年人口の割合は15%：52%：33%を目指していく。基本目標といたしましては、主に自然減対策としては、「基本目標1 若者（18-34歳、特に女性）の結婚・出産・子育ての希望をかなえる」社会減対策としては、「基本目標2 若者の定着と高齢者の活躍により、地域の活力を維持する」ということを事務局案としてまとめていただき

ました。基本的な方向性としてよろしいでしょうか。

(委員同意)

曾我座長

委員の皆様から同意をいただいたということで事務局案を採用といたします。つづきまして、前橋版総合戦略の概要について事務局からご説明をいたたくわけですが、武者委員が退出する必要があるとのことですので、事務局説明前ですが、何かご意見はございますか。

武者委員

意見を言い放しになってしまい申し訳ありませんが、感じたことを伝えさせていただきます。総合戦略について「選択と集中」がキーワードになってますが、前橋市単独で取り組む部分、オール群馬で取り組む部分、県内や県外の市町村と連携して取り組む部分というように施策により役割分担を意識して取り組んでいけばよいのではないのでしょうか。例えば、移住に関して言えば、PRイベントを首都圏で行うとか、大学や高校のOBに働きかけていくということはオール群馬で行っていけばよい部分だと思います。また、県内・県外の市町村と連携する部分については、例えば、野菜を海外に輸出をしていく場合、日本の安心・安全な野菜は海外で人気がありますが、産地リレーを行い年間を通じて安定的に、かつ高品質な農作物を海外に輸出するために、他の市町村と連携していく取り組みもあるのではないのでしょうか。もう一つの視点は、農業分野の振興について今回の総合戦略にも盛り込まれておりますが、これは積極的に進めて欲しいところです。農業は製造業や流通業と異なり、交通網が不便な場所であっても、そこに働き場をつくり、人を呼び込むことができます。当公庫では農業分野への融資を行っておりますが、畜産分野では農場用地として全国どこでもよいので事業用地を斡旋してほしいという声が多く寄せられています。畜産をやる上で一定規模の面積もさることながら糞尿の処理や臭気とかのインフラ対策が非常に重要になります。この条件をクリアできる土地は少ない。こういったニーズを工業団地の誘致と同じような形で行政が整備を行い企業的農業経営を呼び込むことができれば、多少交通網は不便な場所であっても新たに人を集めることができるのではないのでしょうか。

曾我座長

どうもありがとうございました。それでは事務局から前橋版総合戦略の概要について説明をお願いいたします。

谷内田政策推進課長

お世話になります。政策推進課長の谷内田です。私の方から前橋版総合戦略の概要について説明させていただきます。先ほど説明させていただきましたとおり、市民の希望出生率を2030年までに1.82に、そして2040年までに2.07、20-24歳までの各世代の人口を増やしていくための治療策・戦略が今回の前橋版総合戦略となります。「前橋版総合戦略の概要」1ページ目をご覧ください。基本目標については、基本目標1 若者(18-34歳、特に女性)の結婚・出産・子育ての希望をかなえる」社会減対策としては、「基本目標2 若者の定着と高齢者の活躍により、地域の活力を維持する」となっております。基本目標2について委員さんからご質問があり、回答をさせていただきました。前橋の将来

ビジョンについては、高齢者が活躍できるような、高齢者の活躍によって地域が活性化できるようにしたいという概念があることをここで述べさせていただきます。

前橋版総合戦略の基本的な考え方ですが、コンセプトは2つあります。1つは「選択と集中」です。市の総合計画は、「前橋市を良くするための」計画です。今回の総合戦略は、人口減を食い止めるためのものとなっております。そのために「選択と集中」、2点目の「地域特性の活用」が重要となってきます。

2ページをご覧ください。人口減少において一番の問題点は、出生率が1.15と非常に低い東京へ人口が一極集中していることです。また、人口ビジョンで述べさせていただきました前橋の問題点は、①未婚率の上昇、②夫婦間の出生数の減少です。それらについては様々な問題により生じていると認識しております。

3ページ目、4ページ目をご覧ください。こちらにつきましては、強みを一覧にしたものです。前橋の強みはいったい何かということでもとめました。①健康医療、②農業・食、③立地・防災、④教育・文化、⑤自然・エネルギーです。中核市でどのくらいの位置にいるのかを示すデータを掲載いたしました。今回は載せておりませんが、⑥として子育て環境の良さという面も掲載しなくてはいけないと感じているところです。例えば、住宅制度として空き家を活用した二世帯同居や近居の支援を行っていることや保育園の入園待機児童がいないこと、18歳未満の医療費や、第3子以後保育料無料といった女性が働きやすい環境であることを付け加えていきたいと考えております。

それでは5ページと資料4「前橋版総合戦略の体系（案）」をご覧ください。今回の説明は、資料4が中心となります。前橋版総合戦略の理念につきましては、「子どもたちの元気な声が聞こえる ずっと住みたい生涯活躍のまち～健康・医療都市まえばし～」です。基本目標につきましても先ほど申しあげたとおり①若者（18-34歳、特に女性）の結婚・出産・子育ての希望をかなえるという目標を達成するために2030年までに合計特殊出生率1.82、2040までに合計特殊出生率2.07達成を目指します。また、②若者の定着と高齢者の活躍により、地域の活力を維持するという目標を達成するために2040年に本市人口30万人、2060年に人口26万5千人という目標を達成することも大切ではありますが、年少人口・生産年齢人口・老年人口の割合も大切になってきます。

先ほど鎌田委員からお話がありました健康寿命についてです。質問の中で答えさせていただいたとおり、前橋は高齢者の方がいらっしやることは非常にありがたいことだと思っております。しかし、高齢で非健康な方が多くいることは問題だと思います。実は、資料4に入れようか迷ったのですが、前橋の男性の平均寿命が81.04歳、前橋の健康寿命は79.71歳です。その差は1.33歳です。同じように女性の平均寿命は86.74歳、女性の健康寿命が83.92歳です。その差が2.83歳です。率直に言うと健康寿命と平均寿命の差が短すぎるのではないかという感覚はありますが、国の算定方法で計算するとこのような結果になってしまうこととなります。男性の健康寿命と平均寿命の差が1.33歳しかないものを人口ビジョンの中に盛り込むことが非常に難しいなと思っており、市としても苦慮しているところであります。ただ考え方としましては、高齢者の方には健康でいて欲しい。ただ、高齢者の方には健康でいて欲しい。そのような想

いが人口ビジョン・総合戦略の基本目標に入れていきたいと思っております。優先課題につきましては、①未婚率の上昇、②夫婦間の出生数の減少、③若者の総数の減少、④要介護等認定者率の上昇を挙げております。非健康者というものがどのような数字で出すのかが非常に難しかったのですが、今回、要介護認定者利率を指標として出させていただきます。これを解消することが生涯活躍のまちにつながると考えております。その課題解決に向けた方向性としまして①出会いの機会の応援から⑫都市のコンパクト化と交通ネットワーク形成につながります。

この後ですが、残り2回の有識者会議の開催を考えております。課題の解決における施策として43施策あります。これは現在取り組んでいる事業と重ね合わせて出していますが、残る2回の有識者会議の中で「もっと良い事業マッチングがあるのではないか」「もっと良い新規事業があるのではないか」という部分を精査していきたいと思っております。ただ、今回少しだけ述べさせていただきますと、委員の皆様からお話のあった事業承継であるとか、ベンチャーへブزنであるとか、金融機関との連携、過去の出生率の増加の要因を探るとか、地元企業を支えるだとかいろいろご意見をいただいた部分を踏まえながら、次回の有識者会議までに修正して出していきたいと考えております。出会いの機会の応援ということで「HAPPY MARRIAGE LAB (ハピラボ)」という事業があります。男性中心に考えますと男女の出会いを合コン的なものと捉えがちですけれども女性の立場で考えたときそれをどのように捉えるのか。若者の視点も含めて考えることを「HAPPY MARRIAGE LAB (ハピラボ)」で民間と連携しながらやっていきたいと考えております。「3 ジョブセンターまえばし」、「7 子連れ出勤の支援」とかできないかを考えております。2人目の壁打破のところ「11 産後ケア」であるとかを考えております。また、今、前橋市は政策として近居をプッシュしたいと考えておりますが、これは1km以内であれば空き家の改修に補助を出すということをやっております。「近居」の概念をもっと広げられたらと思っております。また、教育が課題となっておりますので「⑦市内大学生等の定着」を目指すために「23 UIJターンの奨励」についても色々な企業の組み合わせによってできるものと考えております。「⑫ふるさと就職」ということで「24 創業拠点 (インキュベーション施設) の開設」、「25 本社機能・バックアップ機能の誘致」などがあります。先ほどエネルギーの話が出てきましたけれども、前橋も「28 分散型エネルギーの推進」ということで木質バイオマス・畜産バイオマスなど地域の中でどのようなエネルギーができるのかをこのところ考えていきたいと考えております。「⑩移住・定住促進」の中では「35 ソーシャルデザイン・コミュニティビジネス支援」のように前橋が進めようとしている多様性 (ダイバーシティ)、「37 スローシティ・スローライフの推進」が該当いたします。それから⑩生涯活躍のまちづくりとして「38 健康寿命の延伸」。それから先ほど事業承継ということを申し上げましたが、60歳、65歳で退官された先生を活用して企業と連携して新しい産業ができないかということで「39 退職者の知識や技術の継承」を考えています。「41 前橋版CCRC」もこの中に入ってきております。皆さんからお話がありましたとおり、市外・県外ということもありましたが、外国人もこの事業の中で考えていければいいと考えています。こちらについてもあくまで概要となり

ますので、第4回有識者会議にはしっかりとしたものを出していきたいと考えております。

今後の総合戦略についてですが、総花的にならないように5ページのような10の事業をピックアップしたいと考えております。前橋版総合戦略における10のシンボル事業として「さきがけ10」という形で人口減少・超高齢者社会というピンチをチャンスに変え、人口減少問題の克服や東京一極集中の是正を解決する全国モデルを創ることをもって、日本再生の魁となる前橋市を創り、人々を幸せにするということを目指しております。43事業をただ並べるのではなくて、この10事業をピックアップし、「さきがけ10」として出したいと考えております。説明は以上となります。

曾我座長

ありがとうございました。事務局からご説明をいただいたところでございますが、時間が来てしまいました。これは全員から意見を聞いてしまいますと午後5時30分くらいまで掛かってしまいますので、今日発言仕切れなかった方についてはペーパーで意見を提出してもらおう形でもよろしいでしょうか。残された20分の中で「これは言っておこう」ということを各自一言ずつ、この列（座長から見て左側）の方からおっしゃっていただいでよろしいでしょうか。

南委員

前橋版総合戦略案の中で43事業を出していただいたわけではございますが、これをすべて前橋の強みとして捉え、横串を刺すという意味で前橋の強みを列挙したPR、全体の強みをPRするような取り組みが必要なのかなと思えました。また、企業に来てもらうということが大切になってくると思います。企業に来てもらう大前提として工業団地の造成が挙げられると思います。農地との兼ね合いもあるかとは思いますが、例えば、高速道路のインターチェンジの付近が農業振興地域であるのは、企業誘致する上で少し違うのかなと思えました。これは、県にお願いしたいのですが、群馬はいい場所だとPRしているのですが、工業団地がありません。群馬は地震が少ない、東京から近いので良いですよとPRして、相手が「群馬はいいところですね。そんなに言うのであれば進出を考えてみますが、具体的に進出できる場所はどこにありますか。」という話になってから工業団地を造成するのではお話にならないわけです。農業振興地域を除外して工業団地を造成するとなると3年から4年掛かるわけです。今から手を打ち、市・県が協力してやらないと東京から企業が来る時には遅くなってしまいます。農林水産省への働きかけなど行い、まずは企業が進出する場を提供していくことが検討課題だと思います。以上です。

阿部委員

前橋市の産業構造、就労の機会を増やすという意味での産業構造を担っていかなければならないのかなと思っておりまして、一番多いのが第三次産業で全体の7割以上（77%）、第二次産業ものづくり、製造業が22%くらい、一次産業は1.2ということであるのですが、その二次産業の部分に就労の機会を含めて増やしていくのをおそらく長い目で見れば大事になってくるのかなという感じがしております。そこが一点とその女性の就労後の活躍の場でございますが、そのものは頭では理解されているとは思いますが、現実どうなのかということ掘り下げていかれたらどうかと思います。以上でございます。

曾我座長	続いて鎌田委員お願いします。
鎌田委員	<p>端的に申し上げますと、新しい前橋の産業、前橋ならではの産業、産業の強化、新しい企業誘致、あるいは IT、あるいは健康医療でもいいのですが前橋の新しい産業はこれだというのを選択と集中でぜひ追求するということをやっているってもらえればと思います。</p> <p>それからもう一点ですが、先ほども申し上げましたが、先ほどのビジョンを出して、その後市民との共感といいますか、市民が「なるほど。いいもの作ってくれたね」となるほどと思えるようなものを考えていただきたいです。これは手法の問題ですが、個人目線・自分目線を見たときに「前橋市はいいな。前橋は好きだな」と思わせるような手段を検討できればと思います。</p>
曾我座長	続いて木暮副会長お願いいたします。
木暮委員	未婚率を下げるということ、それから子育てをしやすくする環境をつくる。今の前橋では保育園では、待機児童がないというのが現実ですけどそういうものを売りにして呼び込みに努めていただければと思います。
曾我座長	ありがとうございます。次に角田会長さんお願いします。
角田委員	<p>先ほども意見として出ていますようにやっぱりなるべく広い工業団地を作って東京の企業とかを誘致したほうがいいと思います。</p> <p>前橋市の工業団地は非常に少ないわけございまして、この近辺には無くて富士見だの宮城のほうに行かないとありません。今のところ南橋はいっぱいございまして、そういう構想をもっていて宮城や富士見などは安く土地が手に入ると思っていますので、企業誘致の検討していただければと思います。特にあのいい企業が来ないと勤める人がなかなか居ないわけございまして、できるだけいい企業を誘致してやっていただければと思います。特に先ほども言いましたけど、とにかく若者の所得が非常に安いということです。農業の問題も話に出ていますが、現在、米が1俵 5,000 円です。だいたい一反で8俵くらいです。4 万円です。これでは燃料代終わってしまいますので、農業政策も変えていかないと若者が百姓やりたがらないですね。特に野菜なんかは朝早く起きて非常に大変な職業でこういって言うほど甘くはないので、ぜひそういうことに力を入れてやっていってもらわないとなかなか農業に若者が定着しないと思いますので色々と施策を考えていただければと思います。特に工業団地とかは百姓とかに誘致していただいて企業を買ってもらいたいということですから、あえて言えば百姓をなかなかやりたがらないわけで百姓だけで食べていけないので野菜を少くくらい売ったくらいでは暮らしていけないので、先ほど申しあげた農業政策をとっていただければと思います。</p>
曾我委員	次に柳田担当課長さんお願いいたします。

柳田委員	<p>昨日、前橋公共交通再生協議会がございましてその中でも出ていたのですけど中心市街地活性化というところで街中に人が集まる施策ですね、そういったことをどういう風にするのか、商店街をまた再生するのか、それとも区画整理事業に関わって住宅やマンションを増やして住空間を作っていくのか、どういった施策で街中の中心市街地活性化をやっていくのかという方向性を立てていただければと思います。</p> <p>それと私事でございますが、住まいは伊勢崎ではございますが子育てという観点で第2子が生まれたとき保育園に預けていると産休や育休に入ると第1子を保育園に預けられないとか、学校対応の学童保育がないと女性がパートタイムで早い時間に帰らなければならないことに対する女性への支援は選択と集中の中では必要になってくると思います。</p> <p>来るときに車の中でラジオを聴いていましたら、産休、育休を取ると職場に復帰する女性が24%であり、残りの74%は元の職場には戻れないという状況もあるそうです。そういった女性の働く場所に対する支援、企業への働きかけ等をやってってもらいたいと思います。以上です</p>
曾我座長	<p>ありがとうございます。では小中さんお願いします。</p>
小中委員	<p>個人的なお話になってしまいますが、ちょうど自分の子どもが若者世代に入っています。ちょうど15歳から24歳の年齢区分でございまして、男の子が地元の高校を卒業して東京の大学に通っています。同級生たちは就職していくのですね。町を出て東京に進学した同級生たちはなかなかこっちへ戻ってこないということです。うちの息子は怠け者で留年しているのですが、ちょうど就職の世代にあたります。</p> <p>それから女の子の方はこの春に東京の大学に進学できる推薦をいただきまして、結局出て行ってしまうという状況です。その中で果たして東京ないしは県外に出て行ってしまおうという若者が結婚・出産・子育てで具体的にどういう夢を持てるかということがその世代の目線ではっきりしてこないと呼び掛けに応じてくれないというわけなのです。</p> <p>よく子供に言うのですが、「どんな環境だったら戻って来るんだい？」と聞くのですが、色々なことを友達の中で話しているらしいですね。こういった会議も重要だと思うのですが、若い方の意見とか意向を反映させるモニターの会議とかミーティングとか実際行っていますでしょうか。若い世代の声というのを同時平行しながら進めていくとより効果的なのではないかと思っています。以上でございます。</p>
曾我座長	<p>ありがとうございます。続きまして窪田さんお願いします。</p>
窪田委員	<p>3点ほどお話をしたいと思います。一つは先ほども話しましたが、男女共同参画という視点で43事業をもう一回見直してみるという考え方が必要かなと思います。</p> <p>もう一点は強みのところでせつかく農業・食と挙げられておきながら事業項目の1～43に反映がされておられません。これをぜひ入れていきたいという考え</p>

があります。

3点目は、事業の1から43は、社会、会社、機能とといいますか、色々な段階の活動を支援しますという感じがします。

前橋市が独自に何かイノベーションとといいますか、自治体が独自にやる新しい事業、そういう観点を一ついれていただければと思います。以上です。

曾我座長

ありがとうございます。では大森さんお願いします。

大森委員

3点お話しします。一点目は男女共同参画の視点から。二点目は子育て支援の視点から。三点目は大学教員の視点からです。一点目の男女共同参画で先ほどの2ページのところで女性の社会進出が未婚率の上昇につながっているような矢印になっていますが、まず女性の社会進出が進まなければ出生率は高くなりません。女性が働いている割合が高い国ほど、あるいは県ほど出生率が高いわけです。その裏で言いますと男性の家事、育児時間が長いほど出生率が高いということになっています。

女性の社会進出は進めなければいけないのに、未婚率が上昇している理由、だから女は働きに出るのは悪いように見えてしまう書き方は絶対に避けなければいけないということが一つです。

加えて女性の社会進出が未婚率を上げているのではなくて進出してそれをしながら結婚生活ができるような社会ができてないことが未婚率を上げている原因なので女性の社会進出自体が未婚率を上げているのでないということです。

そしてもう一つは男女共同参画の観点から言うと産むことについては女性にフォーカスしていいと思うのですが、育てることについていうと例えば待機児童とか学童の話もそうですが、女性がお迎えに行く時間がうんぬんという議論ではなくて親がという表現に常に統一していただきたいと思います。お迎えに行くのは男親も当然でむしろ目標として男性の育児休業取得率がどのくらいなのかということをごんごん上げていくということが必要であって、女性の責任にしてしまうがために、女性が生活と仕事の狭間で苦勞するのであって、男も当然家事育児に責任を負うのだという社会を作っていないと出生率は上がりません。

第二点、子育て支援ですけれども6ページのところのシンボル事業のところは期待しております。3番目の「子育て世代包括支援センターの整備」についてです。ここであえて子育て包括支援ではなく子育て世代包括にさせていただいたところに期待があります。子育てのことだけではなくて、その世代が抱えている課題について取り扱う。だからこのセンターでは、就職の話も家の話も全てここに行けばその世代の不安が解消される。つまり子育て支援課だけがここにいるのではないセンターができることをすごく期待しています。

三点目、大学ですけどもU I Jターンは絶対に必要なことなので是非なのですが、これをあまり強調しすぎると東京の大学に行った方が前橋市に勤めるのが有利だということになります。このことは（大学で働いている）自分のことに関わるので非常に言いづらいのですが、まずもって前橋市にたくさん大学があるということが強みで、そこに進学してもらえれば確実に前橋市に就職できる、としていきたいと思いますので、ちょっと市内の教育機関が薄くてU I J

ターンのところが厚く見えてしまうというところは注意したいなと感じました。以上です。

曾我座長

ありがとうございました。次に深津所長さんお願いします。

深津委員

県も総合計画を作っておりましてその中でも前橋の地域版を私どもも作るにあたって若い方々が集まって懇談会を開催しました。市役所さんもこれからその強みのところに子育ての良さを加えたいという話ですけれども、懇談会の中でも前橋は子育て環境に恵まれているというご意見をいただきました。ですから、子育ての施策と合わせてすでに恵まれているわけですので制度の周知に力を入れていただければと思います。周知という点でやはり懇談会での意見なのですが、その情報発信がなかなか全員に情報が届かない。そういったご意見もございました。情報発信の難しさ、情報共有の難しさというのも一つの課題として掲げられました。これは県も同様ですけど工夫をしてわかりやすく、皆に届くような情報発信、情報共有の仕方の工夫をしていただければと思います。

それともう一点、細かいことですが課題の解決方法として民間との連携とありますが、基本的な考え方として「前橋市の財政的苦しくなっていくますので選択と集中をやっていきますよ。加えて民間との連携や地域との連携をしていきます。」というような基本的な考え方についても加えてもいいのかなと思いました。以上でございます。

曾我座長

続きまして村井部長、お願いいたします。

村井委員

実は今年県が実施した調査で20代から30代までの県外在住の女性の人たちに聞いたところ4割の人たちは戻りたくないというような調査が出ています。その理由の一つが公共交通の便が悪いということ。それから町に活気がない、魅力がないので色々なイベントも少ない、施設もないからとしています。それから希望する就職先がないというような順番だそうです。県内の女性の方にこのまま町に住み続けたいかと聞いたら11%の人しか住み続けたくないと言っています。それも公共交通の便が悪いと指摘している人が多いということでございます。その中でもありますとおり魅力ある町づくりを進める。特にコンパクトシティです。それから郊外との群馬の利便性のよいネットワーク作り、このコンパクトシティとネットワークは大事なことだと思います。特に中心市街地の魅力ある活性化が大事となります。それからバスや鉄道、ずっと課題として出ている両毛線の活性化です。この辺りについてもこの中に明記していただけるとありがたいなと思います。

それから最後になりますが、出生率を上げるために企業も結婚しやすい環境づくりを行い、子育てで支援していくことも大事になると思います。例えば、婚活とかもいいかもしれないし、一人目より二人目、二人目より三人目に助成金を充てるとことを行政も企業もやっていってほしいと思います。その前に子供の産み育てる楽しさや子供の明るい家庭がある大切さや大事さなど教育の現場や、企業、家庭でもそうですし、社会全体で子供たちに教えていくということが大前提にないと今の意識の中では難しいのではないかと思います。

それともう一つは、生まれ育った郷土に対する愛着心あるいは誇りを持たせることで東京へ学びに行ったとしても地域に戻って活躍したいという風な気持ちにさせるということが大事なのかなと思っているので、これについてはヨーロッパがうまくいっているという事情を聞いていますので今後、勉強していただきたいと思います。以上でございます。

曾我座長

ありがとうございます。皆様方から貴重なご意見をいただきありがとうございました。2つだけ言わせていただきますと、大森先生のお話の中で出てきましたが、「健康医療都市まえばし」というのは11年前に前橋商工会議所が言い出した話です。「健康医療都市まえばし」というのもお年寄りとか弱者に最適なまちというイメージが強く出てしまって若い子育て世代からすると、ちょっとイメージが違うのかなという発言をいただいたのでなるほどと思ったのが一つあります。世代の目線がものすごく大切だという発言はまさにそのとおりだなと思いました。できれば前橋は他に先駆けて常設的に若い世代のモニタリングシステムみたいなものを作れば、すごくいいのかなと思います。

また、座長という立場では発言できませんので、もしお許しをいただければ次の有識者会議は少し余裕を持っていただいて若い世代からの若い目線でのご意見をいただければと思います。本来ですとワーキングをやりたいのですが時間もないので、そのような場を作っていただければありがたいと思いました。本来ですとここで自由討論ということなのですが、皆さん方から沢山のご意見をいただきました。討論に変わって内容の濃いようなものを聞かせていただけたのではないかと思います。大変僭越ではございますけど自由討議につきましては外させていただきます。先ほどの2点について申し上げて終わりたいと思います。ここで座長の席を下ろさせていただきます次回の有識者会議にまわしたいと思います。

藤井政策部長

曾我座長様、大変ありがとうございました。本日委員の皆様からいただきました貴重なご意見を次の総合戦略のときに我々が作っていくうえで十分踏まえていきたいと思えます。また、若い方の意見をこの場で聞いてみたいというご意見もございました。それにつきましても検討させていただきます。

それでは今後のスケジュールについてご説明させていただきます。

原田政策推進
課長補佐

今後のスケジュールでございます。資料5をご覧ください。本日第3回目の有識者会議を開催させていただきました。この後、1月中旬に第4回、2月の下旬に第5回の有識者会議を開催させていただきたいとことで考えております。

今現在の日程調整の状況ですけど第4回有識者会議につきましては1月14日の木曜日のほうで調整しております。第4回の有識者会議、時間は未定でございます。そして第5回の有識者会議につきましては2月25日の木曜日を第一候補で日程調整させていただいております。こちらも時間は未定となっております。詳細が決まりましたらまたご案内を差し上げますのでよろしくお願い致します。

また先ほどいただきましたように戦略の部分のご意見をペーパーでというお

曾我座長	<p>話をいただきましたのでこちらもメールを活用いたしましてご案内等をしていただきたいと思いますので、どうぞよろしくお願いいたします。</p> <p>ありがとうございます。少しよろしいでしょうか。市長さんから委員の皆さんからのお礼も兼ねて市長としての想いをお話できればと思います。</p>
山本市長	<p>ありがとうございました。本当に一つ一つメモを取り、参考になるように取り組んでもらいたと思います。</p> <p>お話の途中で数字のデータが出ましたが、偶然、私自身も調べていたデータもありました。前橋における人口のM字カーブはほとんどないということが確認できると思います。この理由として生活が貧しいから女性が専業主婦として家庭に入れないからなのかもしれません。私も実際のところどうなのかというところまで読み取っておりません。大森委員がおっしゃるように地元高校の高卒をして働いていただくことにより、M字カーブの内輪の頂点が伸びますし、または、70歳まで働いてもらうということなのかもしれません。</p> <p>裏ページには鎌田委員からお話のあった健康寿命でございますけど、私も驚いております。少し鎌田委員との数値と僕の数値は違うのですが、これは厚生労働省の健康寿命が上の順位で、県が調べた健康寿命の数字が下のオレンジの中です。前橋の数字は、群馬県の中でもなおさら健康な、特に女性が多いということでございます。女性が元気であるというのはありがたいことです。次に別のペーパーが健康寿命計画です。これ見ていただければわかるのですが糖尿病の患者がなくなれば、前橋の健康寿命はドスンと延びるということです。どれだけスポーツをしていただくか、野菜を食べていただくかということです。偶然お話の中で数字が出たものを手持ちで持っていたので配らせていただきました。参考になるご意見を聞かせていただき一生懸命頑張っております。本日は本当にありがとうございました。</p>
藤井政策部長	<p>長時間にわたりまして委員の皆様、貴重なご意見等ありがとうございました。それでは以上をもちまして県都まえばし創生本部第3回有識者会議を閉じさせていただきます。本当にありがとうございました。</p> <p style="text-align: right;">以上</p>